

ほんのしるべ

# 青標

2016.  
8月号

2016年8月5日発行(毎月1回5日発行)  
通巻453号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



## 世界の本屋さん

vol.56

### ブータン・パロ スチューデントプラス

ノセ事務所

能勢 仁



ブータンは国全体の人口が六十八万人と少ない。山岳国なので平地が少なく、三〇〇メートルの滑走路が首都ティンブーではとれず、五十二キロメートル離れたパロに空港がある。とは言え着陸時の緊張感は今思い出しても怖い。

パロはブータンの玄関の街として開けている。政治、経済、文化、外交は首都ティンブーが中心である。出版、書店事情でいえばティンブーは活発であったが、パロには書店は一軒しかなかった。ローリング・パブリケーションという出版社が一家あり、その社長のソナム・シャーリングさんが市内唯一の書店「スチューデントプラス」を経営していた。

店は三間×六間、十八坪の横長の店で

ある。経営は殆ど息子に任されていた。その息子が地域の人に絶大の信頼を受けていた。父親は教育者であり、熱血漢で、地元貢献者である。親の七光りを一身に受けていたのである。店名でわかるようにスチューデント対象の本に力が入っていた。就学前、小学生対象の読み物、絵本が全体の三十%である。参考書、問題集の対象は中学生で、こどもの本以外、PBの小説も並んでいた。書かれているのは英語である。料理書も少しあった。実用書、小説が三十%で、残りは郷土の本であるブータン写真集、歴史、文化、ヒマラヤ写真集、仏教史であった。この書店の力点はスチューデントと郷土書にあった。

あてなるもの 薄色に白襲の汗衫。

かりのこ。削り氷に甘葛入れて、あ

たらしき碗に入れたる。水晶の数珠。

藤の花。梅花に雪の降りかかりたる。

いみじうつくしくしきばこのいちごな

ど食いたる。

『新編日本古典文学全集18 枕草子』

校中・訳 松尾聡 永井和子（小学館）より



# もくじ

世界の本屋さん 56

『書標』歳時記（8月）

著書を語る⑤ 『あなたは加害者？ それとも被害者？』

刊行に寄せて

尾島 史賢

書標・書評 『人工知能は敵か味方か』 ほか

特集 スタジオの音がきこえる

レコーディング空間の魔法

ことばを旅の友に 詩歌・名文を集めて

今月のおすすめ

社会科学	16	コンピュータ	18
自然科学	19	医学書	20
人文科学	21	文学・芸	22
文庫・新書	23	芸術	24
実用書	25	地図・旅行書	25
語学・辞典	26	児童書	27
コミックフロアより			
インフォメーション			
本屋つらばなし 「迷いに価値などあるのか」	30		28

※表示価格はすべて本体価格です。



本書の刊行は時宜に適ったものであると思われます。

私も高校時代は野球部に所属して甲子園を目指し、毎日泥まみれになりながら、練習に明け暮れました。結果として甲子園には行けなかったのですが、最後まで全力でやり抜きました。

もしも、甲子園を目指している野球少年が、他の野球部員の不祥事により、野球部自体が出場停止や出場辞退に追い込まれたとすれば、突如断ち切られた彼らの無念さは筆舌に尽くし難いし、事件を起こした当の本人の抱える苦悩と後悔がどれほどのものであるか想像に難くないでしょう。

この野球少年に、法律を教えてあげる機会があったならば、やってはいけないことについて皆で話し合える環境が整っていたならば、学生生活をそれぞれが思う存分全うできたかもしれないと思うと、非常に残念に思うのです。

夢や志を育む大切な学生時代に、「知らなかった」ということだけで加害者になったり、被害者になったりしてほしくない。

私たち弁護士は、依頼者から受任し専門的知識を駆使して事件を解決していくのが主な仕事ですが、事件に発展するまでの段階で、もっといろんな人に、いろ

んな角度から、いろんな方法で、「法律」を伝え続けていかなければならないと思っています。たとえば、そのひとつの方法として、小中学生や高校生らに、弁護士の仕事について知ってもらおう授業や模擬裁判を行ったりもしています。

今回は、初めて書籍によるアプローチを試みました。そして、これを皮切りに、もっと小さな子どもたちに向けて、法律の世界に興味を持ってもらえるような、弁護士をはじめとする法曹の仕事の素晴らしさや面白さを伝えられるような本も新たに執筆していきたいと思っています。



『あなたは加害者？  
それとも被害者？』  
関西大学出版部・900円



## 『人工知能は敵か味方か』

ジヨン・マルコフ著

日経BP社・二二〇〇円

Googleの自動運転車や、アルファ碁対人間の試合がニュースになるなど、もはや流行語として認知されている感すらある人工知能。多くの書籍が出版され、専門家のみならず、広く世間から注目されている。ただし、そこで論じられているのは「AI」についてであり、二〇四五年にはAIが人間の知能を凌駕するという言説（シンギュラリティ）から、知能爆発がもたらす影響に対して、楽観論と悲観論が交錯し、もはや終末論の様相を呈している。

しかし本書において語られるのは、研究者達はずでに一九五〇年代から、人間に代替する機械であるAIと、人間をサポートする機械であるAI、という異なるアプローチで、二つの派閥が研究してきたという事実である。いわば、人工知能研究が今日に至るまでの歴史書である。研究者自身に焦点を当て、その個人史と人工知能やロボットとの歴史を重ねる事により、

彼らが抱く混乱やパラドックスを明らかにし、その研究をめぐる現状を浮かび上がらせていく。特に、日本人にも馴染みのある「Siri」はその到達点の一つであり、それに至ったステイブ・ジョブズの登場がドラマティックに描かれる点は、人工知能が我々にとって、いかに身近な存在であるかを示しているように思える。

本書では最終的に、その帰趨を決定するのは機械でも研究者でもなく、我々ユーザー自身であると結んでいる。子ども頃に描いた未来、それが現実になった後、人間は自分たちが選択した未来に対して、いかなる感慨を抱くのか。（内）

## 『イン・アメリカ』

スーザン・ソントグ著 木幡和枝訳

河出書房新社・四二〇〇円

小説は〇章から始まる。言わば前日譚。作者の頭の中で生まれた人物が、名を持ち、動き始めるまで。一八七六年、ポーランドで名を成した女優マリナが、国内での名声を捨て、仲間たちと「新世界」アメリカへと旅立つ。シャルル・フリエのユートピア社会主義思想の影響を受けて。ソントグはマリナと同化するのではなく、ギリ

シア神話の女神のように彼女に随行し、彼女とともに十九世紀を生きる（ことにする）。  
「ああ、不思議！」

こんなにかいれいな生きものがこんなにかくさん。

人間はなんて美しいのだろう。ああ、素晴らしい新世界、  
晴らしい新世界、  
こういう人たちが住んでいるの！

（『テンペスト』ちくま文庫・松岡和子訳）  
シェイクスピアがキャリアの晩年をロマンス劇でしめくくったように、ソントグもまた晩年のこの小説でシェイクスピアと戯れている。「演劇」という世界、「アメリカ」という名の劇場を、縦横無尽に、軽やかなステップを踏んで。もちろん努力は欠かさない。日記体、書簡体、戯曲の長台詞のような長い独白……後半には彼女が生涯かけて得た演劇論をこれでもかとぶち込んであるし、敬意と友情をこめて、シェイクスピアの諸作を織り込んでいいる。  
でもやはりソントグはマリナとダンスしているのだ、無限の可能性を信じて、ためらうことなく飛び込んでいくことができ、たシェイクスピアの世界、そして今は何もどこにもない、アメリカという「素晴らしい新世界」に恋して。

「アメリカ、アメリカノ それはしつぺ返  
しするの」 (P)

### 『ヨーロッパ・コーリング』

地べたからのポリティカル・レポート』

ブレイディみかこ著 岩波書店・一八〇〇円

スコットランド独立!? EU離脱!?

最近のイギリス関係のニュースに、日本人はいささか面食らってはいないだろうか。一体、イギリスでは今、何が起きているのか?

イギリスは、長く日本のお手本であった。大陸直近の島嶼というよく似た地政学的国土を持ち、議院内閣制、民主主義を標榜しながらの君主制、殖産興業から植民地政策を経て高度成長まで、日本は資本主義の先兵であるイギリスを追いかけてきた。

ぼくらが教科書で「ゆりかごから墓場まで」と習った、NH S (国営医療サービス)をはじめとする手厚い福祉政策も、戦後日本のお手本であった。そのお手本が、揺らいている。

だが、その揺らぎは、現在の世界秩序のオルタナティブへの胎動でもある。

反戦、反核、反緊縮の左翼的性格と、燃えるようなナショナリズムを共存させてい

るスコットランド国民党 (SNP) は、移民にも政治参加を求める「市民的ナショナリズム」を謳う。「スコットランド独立」のリアルが仄見えてくる。

「ヨーロッパ移民排斥」というステレオタイプな見方は無意味だ。今や「右とか左とかいう横軸の問題ではない。下側が怒っているのだ」。それゆえ、「地べたからのレポート」なのだ。

イギリスは、今もぼくたちのお手本だった。 (フ)

### 『ハリネズミの願い』

トーン・テレヘン著 長山さき訳

新潮社・一三〇〇円

オランダの児童文学作家による、「大人のためのどうぶつたちの小説」シリーズと銘打たれたうちの一冊。孤独なハリネズミが、誰かを自らの家に招待しようと思いたち手紙を書くも、なかなかそれを送ることができない。動物たちの来訪に際して、どのようなことが起こりうるのか。どのように対応すればいいのか。もしもサイが来たら、キリンが来たら、クジラが来たら……。

彼の頭の中で次々と練り広げられる、その仮想の訪問がもたらす困難と、誰かを招待

しようという思いのせめぎ合いにより、物語は進んでいく。

ハリネズミが思い浮かべる多種多様な動物たちの交流の様子は、人間社会での相互理解の難しさも表しているのではないだろうか。彼が想像する他の動物達のふるまいや考え方は、実際の人間社会における他人のそれと同じく様々で、本人以外にそれを完璧に知る術も無いにも関わらず、そこで必要以上に深く悩み、足踏みをしてしまうハリネズミの姿に共感を覚えた。

また主人公のハリネズミは、ハリネズミでありながら自分の針のことが嫌いである、という大変な矛盾を抱えている。こんなハリがなければ、もっとみんなと上手くやっつけていけるはずだと、自分の持つ欠点のせいで、他人とうまく付き合うことができずに悩んでいる反面、ハリがなくなってしまうたらそれは自分ではない、ということも心の底で理解している。その姿が、実に人間らしい。自分自身の嫌いな一面がその実、自分自身を形付ける大事な個性となっていることも往々にしてある。自らを傷つけ、また時には誇りともなりうる、そんな自分にとっての『ハリ』はなんであるだろうか、と考えさせられる。 (佳)

# スタジオの音がきこえる

## レコーディング空間の魔法

このブック・フェアのタイトルは、高橋太郎『スタジオの音が聴こえる』(DU BOOKS・二〇〇〇円)から拝借したものである。二〇〇九年、雑誌『ビートサウンド』で始まったこの連載の面白さは半端なものではなかった。一発録りが基本だった時代から24トラックが常識になる一九七〇年代後半までの、それほど長くはない移行期のポピュラー音楽が、なぜ色褪せないのか? なぜ「音が良い」のか? その時期に「スタジオ内では特別なバランスが実現されていた」と高橋氏は言う。この評言に触発されるかたちで、ポピュラー音楽のレコードを作り出したスタジオに注目してみた。



『スタジオの音が聴こえる』

クラシックならコンサート、ジャズならライブ。それぞれの音楽ファンにとっては今日でもこれがベストであり、自宅

の装置での再生はコンサートやライブの疑似体験にすぎない。「レコード」とは本来「記録」を意味するのだから、二十世紀も前半までは、屋内・屋外で演奏された音をそのまま記録したものがレコードであった。森芳久『音響技術史』(東京藝術大学出版会・一八〇〇円)はテクノロジーの通史として基本図書だ。録音と再生・聴取の哲学的考察なら、ジョン・スターン『聞こえる過去』(インスクリプト・中川克志他訳・五八〇〇円)がある。「音響忠実性」とは、ビクター・レコードの宣伝文にあるように「カルーソー本人と同じくらい本物のカルーソー」であることなのだ。

コーガン／クラーク『レコーディング・スタジオの伝説』(スペースシャワーネットワーク・奥田祐士訳・版元品切)は「レコーディングはかつて、ロマンティックな営為だった」と始まる。一九五〇年代、六〇年代のサウンドを作った黄金時代の、美しい写真を入れたスタジオ史にしてエンジニア列伝は愛蔵に値する。また、「ソウルのゴッド・ファーザー」の異名をとるジェリー・ウエクスラーの自伝「私

はリズム&ブルースを創った」(みすず書房・新井崇嗣訳・四五〇〇円)も、アレサ・フランクリンの永遠の名曲がアトラネティック・スタジオで録音された瞬間の奇跡を再体験させる。



『私はリズム＆ブルースを創った』

そして移行期がやってくる。ちょうど五十年前、ポピュラー音楽の世界で起こった変化は、演奏の忠実な記録を塗り替えてしまう「レコード」を生み出した。一九六六年、ロサンゼルスでビーチ・ボーイズ「ペット・サウンズ」の録音が終わる頃、ロンドンのEMIスタジオ(アビー・ロード・スタジオと呼ばれるのは同名アルバムの六九年以降)で、ビートルズが「リボルバー」のレコーディングを開始する。日本では夏と秋の発売になった二枚のアルバムで、両グループの来日コンサートが実現したまさにこの

年、レコードの楽曲は「本人と同じくらい本物」から、本当の「本物」になってしまったのである。

最愛のアルバムをリスナーの側から語るのが、ジム・フジリー『ペット・サウンズ』(新潮文庫・村上春樹訳・四九〇円)。「素敵じゃないか」の伴奏トラックだけを「一日聴き続けて」いられるというジムは、参加ミュージシャンたちの音を細かく聞き分ける。映画にまでなったそのキャピトル・スタジオの「完全無欠のブ口集団」については、ケント・ハートマン「レッキング・クルーのいい仕事」(スペースシャワーネットワーク・加瀬俊訳・二八〇〇円)が詳細に書いている。

一方、「リボルバー」直前にジョージ・マティンからエンジニアに抜擢されたジェフ・エメリックの『ザ・ビートルズ・サウンド 最後の真実』(河出書房新社・奥田祐士訳・四二〇〇円)は、現場で何か起こったかを記録した出色の本だ。六八年、トライデント・スタジオで8トラック録音された「ヘイ・ジュード」のミックスが「てんでダメ」だったという有名な逸話も、ジェフの回想で読むと、じつに生々しい。

同じロンドンにあり、映画館を改築したオリピック・スタジオでローリング・ストーンズを録音していたのが、グリーン・ジョンズである。彼の回想録『サウンド・マン』(シンコーミュージック・新井崇嗣訳・二五〇〇円)は、その時代から今日にいたるまで数々のロック名盤をエンジニアとして生み出した逸話(ゴシップも)に満ちているのみならず、スタジオの機器がどのようにして進化したかを自在に語っている。エリック・クラプトン、レッド・ツェッペリン、イーグルス、ザ・フーなどのアルバムを聴きながら読めば、あつという間に時が過ぎてしまうことだろう。



『サウンド・マン』

七〇年代初頭のことは、たとえばポール・マイヤーズ『トッド・ラングレンのスタジオ黄金狂時代』(スペースシャワー

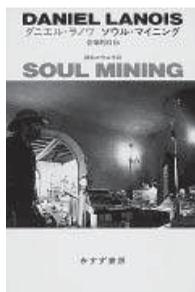
ネットワーク・奥田祐士訳・二八〇〇円）に興味深い逸話がある。ザ・バンドの三作目「ステージ・フライト」の録音を、トッドがウッドストック・プレイハウスで行い、ミックも済ませたのに、大物エンジニアのグリーン・ジョンスにもやらせるとザ・バンドに言われた。テープを持ってロンドンに飛び、「トライデントかどこかスピーカーはほくの嫌いなタンノイ」で二人してそれぞれにミキシングしたという。『サウンド・マン』でグリーンは、新しいベイキング・ストリート・スタジオのハリオスのコンソール卓で初めて16トラックを使い、別個のミックスを作ったから、「トッドとは顔さえ合わせなかった」と言っている。こんな食い違いも、また楽しい。高橋健太郎氏は、どの曲をどちらがミックスしたのか、耳で（！）判定している。

ドナルド・フェイゲンが八二年に発表したアルバムについての、プロの目と耳からの一冊が、富田恵一『ナイトフライ』（DU BOOKS・二〇〇〇円）。デジタル・レコーディングの黎明期に生まれた大傑作の所以を緻密に分析して、「生演奏とプ

ログラミングの真に異なる点は何か？」にも答える。この本とか、デイヴィッド・ゾンネンシャイン『Sound Design 映画を響かせる「音」のつくり方』（フィルムアート社・シカ・マッケンジー訳・二五〇〇円）など音響学系の新潮流は未来を向いている。過渡期のスタジオにあつた熱気とは別の、今日のDTM時代を予言するものかもしれない。やや筋違いたが、デイヴィッド・グラブス『レコードは風景をだいなしにする』（フィルムアート社・若尾裕／柳沢英輔訳・二八〇〇円）は、六七年生まれのレコードオタクが大都市に出て、即興音楽の本質に触れ、ポスト・レコーディング時代の音楽家にして理論家になる過程を誠実に記した本。ていねいな編集の美しい日本語版が、感動をもたらす。

『ポップ・テイラン自伝』の中で「オー・マーシー」の思い出が印象深い。スランプだったデイランは八九年、この傑作で復活した。プロデュースしたダニエル・ラノワの音楽的自伝『ソウル・マイニング』（みすず書房・鈴木コウユウ訳・三八〇〇円）は、レコーディングの様子

を細かく伝えてくれる。少年時代から自宅にスタジオを手作りしたラノワは、田舎町で小さなスタジオを営業していた。噂を聞いたブライアン・イーノがそこへ来たことでU2などとの運命が開かれる。デイランはラノワと組んでもう一枚「タイム・アウト・オブ・マインド」を出したが、過剰な音づくりに飽きたのか、近作はシナトラが録音したキャピトル・スタジオで、気心の知れたバンドとカバーアルバムを制作している。



『ソウル・マイニング』

今年になって、デイヴィッド・ボウイが亡くなった。ベルリン、ポツダム広場近くの「壁」の脇にあつたハンザ・スタジオは七〇年代後半のボウイと切り離せない。そして、八〇年に「愛のペガサス」で日本に登場したプリンスも、四月に死んでしまった。早くから両者を評価して

いた今野雄二の一周忌に出た評論集『無限の歓喜』（ミュージック・マガジン・二四〇〇円）は一貫した態度で音楽美学を論じているゆえに優れたスタジオ論にもなっている。西寺郷太『プリンス論』（新潮新書・七六〇円）は音楽家としてスタジオをよく知る者の視点から、BPM（一分当たりのビート数）を調べて「ヒットはテンポだ」と見抜く箇所などあり、音楽に身を捧げたこの男への愛に満ちている。八〇年代後半、「ラヴセクシー」録音当時の記録を調べ、プリンスは「一日に四曲のドラムを録音し、それから順次ベースやギター、鍵盤をオーヴァー・ダビング」したという。まだ自宅のパソコンで自由に音楽をつくれる時代ではない。スタジオとエンジニアを所有していたからこそ可能だったことである。



『大瀧詠一 Writing & Talking』

日本でスタジオの鬼といえ、大瀧詠一だろう。大晦日の夜に急死してから二年後に出た大冊『大瀧詠一 Writing & Talking』（白夜書房・四五〇〇円）は、ポツプス哲学の尽きせぬ宝庫だ。「人前に出たくないんだよ単純に」というコンサート嫌いの大瀧は、岩手県から上京して一年で細野晴臣に出会う。七〇年四月、アオイ・スタジオで「はっぴいえんど」の録音。五年後には福生45スタジオが完成して、伝説となったレコーディング生活が始まる。鈴木惣一朗『細野晴臣 録音術』（DU BOOKS・二五〇〇円）も力作。七人のエンジニアと、細野のインタビュー集。たとえば一人目の吉野金次は工業高校電子科を卒業、東芝の録音課に配属。彼はなんと日本に届いたばかりのビートルズ「アビー・ロード」キャピトル・マスター・コピーのテープを編集した青年だった。七三年、細野の自宅で「HOSONO HOUSE」を吉野が録音したときの機材の話や写真も貴重である。八〇年代までの歌謡曲、ニューミュージックを作り出したアレンジャーとスタジオ・ワークを徹底して調べた『ニッポンの編曲家』（DU BOOKS・一三〇〇円）

と合わせ読むと、あの時代のパイオニアたちの熱意と喜びが伝わってくる。

先日の日経新聞は、この五年間で国内のアナログレコード生産数が六倍に増えた、と伝えていた。懐かしさだけでは説明できないレコードの魅力を感じさせてくれるのが、湯浅学『アナログ穴太郎音盤記』（音楽出版社・一八五二円）。敢えて近年の新譜に限り、ニール・ヤングやレナード・コーエンといったベテランから二十一世紀の若手までの、アナログ盤を紹介する。そこに聞こえるのは「スタジオの音」だ。

（みすず書房 尾方邦雄）

\*愛書家の楽園・特集「スタジオの音がきこえる レコーディング空間の魔法」で紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前と福岡店三階、丸善名古屋本店一階と京都本店地下二階にて、八月十日〜九月九日までフェア展開中です。



ことばと

## 旅の友に

詩歌・名文を集めて

旅の友。鞆の中に忍ばせたい本を、春から夏の博多駅でお求めいただけました。そんな思いで、小さくて、短い時間で読める美しい本を、集め始めました。

まずは詩集。

岩波文庫が近年刊行し始めた現代詩集が好評で、『自選 谷川俊太郎詩集』（岩波文庫・七〇〇円）に始まり、『茨木のり子詩集』（谷川俊太郎選・七〇〇円）『辻征夫詩集』（谷川俊太郎編・五六〇円）『石垣りん詩集』（伊藤比呂美編・七〇〇円）『自選 大岡信詩集』（七四〇円）と続いています。

詩集は、選者や編者によってまったく趣を変えてしまう美術展のようなもので、既に知っている詩であっても、岩波文庫もしくは精興社の文字で読むとまた新たな響きを感じることができます。

これを童話屋の詩文庫シリーズと合わせて読みたいな思っていたら、童話屋さんから「詩が動きはじめた」というフェアのご提案が。渡りに船ですね。

童話屋の詩集を店頭で見かけたら、必ず開いてみてください。本のお手本のよくな作りで、瞳にすんなりと入ってきます。

す。岩波文庫同様、大人向けの静かな悲しみや憤りがにじむ成熟した作品が人気で、プレゼントにも好評です。



『自選 谷川俊太郎詩集』

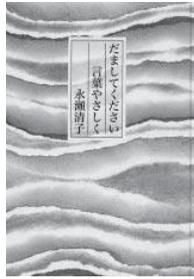
永瀬清子『だましてくださいます 言葉やさしく』（童話屋・一二五〇円）もおすすです。永瀬清子は農村の生活の中で、生活感のある詩をたくさん生み出しました。どんな一日だったとしても、よい日だったように思えてくる詩。「よい日」が嬉しい日だったとは限りません。損をしたような、不満の残る戦いの一日だったかもしれない。それでも書く。書いてしまえば日ごと新しくなる、書くことの尊さ、美しさが隔々まで満ちた詩集です。

美しいものを見た。それはさくろの木だった。東京の宿で朝早く窓をあけた時、それは沢山の実をたらし、宿の庭に立つ

ていた。(中略)／＼さくろよさくろ／お前はいつもそこにいたのに何度もここへ泊まった私は気がつかなかった。／だからどちらが旅人とも云えず、お前は私へ今朝来たのだ。

〔やぐろ〕よじ

旅心はさくろから東方へ、そして『わが名はアラム』の作家サロウヤンの故郷へ。自由とは程遠い生活から生まれる短章が、読者を遠いところへ連れていってくれます。



『だましてさくろ』  
『言葉』

彼女が若い頃に読んだ詩、上田敏訳『海潮音』(三七〇円)は新潮文庫に収められています。新潮文庫は海外詩集の宝庫。ヘッセ・ゲーテ・バイロン・ボードレー・コクトー・ヴェルレーヌ・ランボー・アポリネール・シェリー・ポー・リルケ・ハイネなど。

海外文学として普段著者順に並んでいる新潮文庫ですが、こうして挙げてみると、本当に美しい本ばかり。すこし古いのですが、味のある訳詩集を選んでみてください。



『自伝からはじまる70章』

詩集から散文へ、より深く読み進めたいと思ったら、思潮社・詩の森文庫もおすすめです。前出の永瀬清子『短章集』(正・続、各九八〇円)の他、コンパクトな本の中に詩人の文章が詰まっています。田村隆一『自伝からはじまる70章』大切なことはすべて酒場から学んだ』『吉岡実散文抄―詩神が住まう場所』、谷川雁『汝、尾をふらざるか―詩人とは何か』(各九八〇円)等。新書サイズで手にとりやすい装幀です。



『詞集たいまつ I』

詩集から散文へ。次に行き着いたのは「コラム」でした。

むのたけし『詞集たいまつ I』(評論社・一〇〇〇〜二〇〇〇円)は今回のフェアから最もよく売れた本のひとつ。むの氏はジャーナリスト。その短章、アフォリズムは悔いや怒りに満ちています。そんななかにも、不意に笑ってしまう、心憎い言葉もあって、それを見つけたのも楽しみだったりします。例えば、雪の白さをほめる形容詞があっても、雪の白さをけなす言葉は聞かない。人はだまだけでなくだまされたらしい。これを読んで私も、けなす言葉を探してみました。降った雪の量をけなすことは出来ても、その白さをけなすことは難しいな、と考えることしきりです。騙されたのでしょうか。皆さんは何か思いつきますか。



『深代惇郎の  
天声人語』

合わせて新聞各社、雑誌の論説を集めた文庫・新書も。『深代惇郎の天声人語』（正・続、朝日文庫・各七二〇円）は一九七三年から七五年の論説。深代氏は七五年の冬に急逝しています。一昨年、後藤正治『天人深代惇郎と新聞の時代』（講談社・一八〇〇円）で改めて脚光を浴びたのですが、その文章をなかなかご紹介できず、本屋としてはちよつとやきもきしていたところ、昨年文庫化されました。

モハメド・アリの「タオルの男」など、記者として世界を駆け巡り、出会った人物の気迫と真実が描かれた文章。選ばれたコラムにはすべて、現在への警鐘が鳴らされているように感じます。古今東西のあらゆる話題を冷静で簡潔に、時に熱く、書き上げた名コラムの数々は、今日

という日がどこからきてどこへ行くのかを読者に毎朝告げていました。

竹内正明『名文どろぼう』（文春新書・七三〇円）は読売新聞「編集手帳」の筆者による文章術。新聞のコラムは引用の妙があります。その技術を、実例をふんだんに交えて紹介した新書です。自らをどろぼうと仰せになる竹内氏。取り上げる文章もちよつと悪びれて見えて、本当に人間らしくて声をあげて笑いそうに。懇切丁寧な巻末のブックリストを見ると、そこはもう名文一覽で、読みたい本がぐんぐんと増えていくこと確かです。

同じく文春新書から徳岡孝夫・中野翠『泣ける話、笑える話 名文見本帖』（七八〇円）も。

雑誌「諸君！」の巻頭文「紳士と淑女」の徳岡氏と、「サンデー毎日」のコラム「満月雑記帳」の中野氏。最強のコンプィが、対談形式ではなく一編ずつ交代で、それぞれの時代、その一瞬にしか成し得なかった体験やエピソードを短く綴っています。これがタイトル通り泣けて、笑え

る。圧巻のプロの文章です。人情というのか、可笑しみと悲しみの紙一重で、今日読んで泣いた文章も、何年後かには笑っているのではないかと思える機知に富んでいます。



『悲しみの秘儀』

若松英輔『悲しみの秘儀』（ナナロク社・一六〇〇円）もコラムのひとつ。日経新聞で連載されていたものをまとめた一冊で、日経新聞らしく、若松さんの会社員時代の話などにも触れられています。また、在野で人々に尽くし、研鑽に努めた人々の書物を折々に紹介する書評集にもなっており、昨年、店内で講座も開催していただきました。

講座のタイトルは「読むと書く」。書いたことを発表するのではなく、書くことによつて生まれた感情や思いを伝え合つてみるという講座で、様々な立場、

年齢の方々が集まり、その思いを寄せ合うユニークな集いでした。

日曜日の店内の片隅とはいっても、泣き出す子どもの声がすぐそこで聞こえていたり、携帯電話片手に要件を話す大きな声や、会計のレジが開く音がしたり。しかし、講座の中だけは、熱く静かでした。

涙は、必ずしも頬を伝うとは限らない。悲しみが極まったとき、涙は溜れることがある。(中略) 悲しむ者は、新しい生の幕開けに立ち会っているのかもしれない。

こんな言葉で始まる本の中に込められた悲しみを、会場に集まった人々は共有し、若松氏の話に耳を傾けている。本はスピーカーのように思いを反響させる機能があるのかもしれないと思った瞬間でした。

『悲しみの秘儀』と一緒に並べていた原民喜『夏の花 心願の国』(新潮文庫・四九〇円)が春先に売れました。ちょうど本屋大賞で一位になった宮下奈都『羊と鋼の森』にも登場していますし、同書にも収録されている『鎮魂歌』の直筆原稿が見つかり、広島に帰したという

ニュースを目にした方が読んでくださったのかと想像してみるものの、いまだに明確な理由はわかりません。

本屋の嬉しくも哀しいところは、その本を買っていくお客様に、購入の理由を聞けないところ。だからこそ、楽しいのですが。



『夏の花 心願の国』

そんな思いを巡らせていた夜、突如店内が揺れました。私たちは閉店後、棚整理や会計をそろそろ終えようかとしていたところで、慌ててニュースを見ると、免震構造の中にいる私たちが感じた以上に、熊本を震源に激しく揺れていることがわかり、皆で慌てて帰宅しました。翌日も通常通り店を開け、時折おとずれる揺れも余震と思いきみ、営業中の地震の際は、お客様をどちらへ避難誘導するかと再確認をしたりしていました。

しかし、深夜にまさかの本震。日暮れと夜明けの遅い九州で、なかなか明けない空と、暗闇で鳴き続けるカラスの声を聞きながら朝を待ちました。

朝、バスは動いているからと出勤してみると、博多駅はいつも通りの往来でにぎわっていました。店は無事と安心する一方で、揺れる我が家とのギャップと寝不足で、気を張っていたスタッフが少しずつ疲れていたような気がします。



『HOMETOWN EXPRESS 「祝！九州」 写真集』

開業五周年を祝おうと数冊仕入れていた九州新幹線の開業CM写真集『HOMETOWN EXPRESS 「祝！九州」 写真集』(書肆侃侃房・二八〇〇円)を見て、こんなにも笑顔が並んでいた時があったのにと悲しい気持ちになっていたところ、侃侃房の営業・園田さんからお電話が。

「カバー裏は、熊本駅なんです。持っ  
ていきますね」と。

裏返すと、スズナリの笑顔。家族のア  
ルバムを見るような気持で毎日レジから  
見えています。

書肆侃侃房は福岡にある出版社で、笹  
井宏之「八月のフルート奏者」(一七〇〇  
円)などで知られる「新鋭短歌」シリ  
ーズや話題のフリーペーパーも、このフェ  
アの目玉になっていました。文学ムック  
『たべるのがおそい』(一三〇〇円)もこ  
の出版社から刊行されています。熊本の  
出版社・伽鹿舎「片隅」(01、02・九二六  
円)など、これからの文芸を活気づける  
個性的な九州発の雑誌も並び、日が経つ  
につれ、フェアの内容は充実していきま  
した。



『たべるのがおそい』



『戦争とおはぎと  
グリーンピース』

新幹線は驚きの早さで復旧し、皆が熊  
本への支援に急ぐ頃、西日本新聞社から  
もコラム集が刊行されました。

昭和二十九年より続く「紅皿」という  
婦人新聞投稿欄。発足より十年の間に寄  
せられた三千を超える投稿の中から、戦  
争について書かれた三百余りの投稿を集  
め、四十二編を選んだ『戦争とおはぎと  
グリーンピース』(西日本新聞社編・  
一四〇〇円)は、刊行よりじわじわと話  
題を呼び、全国的な拡がりとなりつつあ  
ります。

まえがきを書いている西日本新聞社の  
鴻池佐和子さんが、装画と挿絵を描いた  
田中千智さんのパネルを持って先日ご来  
店。すこしお話をすることができました。  
戦地に赴いた息子の好物だったおはぎ  
を、戦後何度も作っては迎えに出かけた  
母の投稿を読んだのが、この本を作る

きっかけになったそうです。巻末には、  
児童文学作家の村中李衣さんによる、一  
編一編に寄せた解説と、若き編集者・鴻  
池さんの受けた衝撃について書いていま  
す。記者であり編集者である鴻池さんの  
揺れる思いと覚悟もこの本の中に含まれ  
ていて、本当にいい本です。先に触れた  
永瀬清子氏の本と同様、書くことによっ  
て平和を願う気持ちを固めた女性たちの  
言葉は、もっと読まれたほうがいい。売  
らなければと思っています。



『戦争中の暮  
しの記録』

この本のそばには、暮しの手帖社「戦  
争中の暮しの記録」(暮しの手帖編集部  
編・二二〇〇円)、『デルタの記』(一七四八  
円)も。それは、名編集者・花森安治が  
遺さずにはいられなかった、普通の暮し  
を大切にす家族たちの言葉が集まった  
本で、四十八年近く読まれ続けている貴

重な本です。

昨年は戦後七十年ということので、多くの記事や書籍、テレビ番組などで特集が組まれました。今年は七十一年目です。当たり前のことですが、忘れてはいけないので、ここに書いておこうと思います。

ここ数年、贈り物に多く包装をした詩集は、夏葉社『さよならのあとで』（ヘンリー・スコット・ホランド詩・高橋和枝絵・一三〇〇円）でした。

悲嘆にくれる遺された人に、死者が語りかけてくるような詩が、一冊の本になっています。やわらかい言葉が、頁にふわりと乗せるように置かれ、積み重なっている本といえ、伝わるでしょうか。



『さよならのあとで』

この詩を朗読した本もあります。

『倍賞千恵子ころのうた風になっ

て、あなたに会いに行きます』（駒草出版・一九〇〇円）

女優の倍賞千恵子さんが、お芝居や歌についての思いや、震災後の心境について語ったCD付の書籍。抒情歌と朗読が芯のある美しい声で捧げられた一冊で、音楽を聴き終えると、長い物語を読み終えたような気持ちになります。悲しみが癒えて、いつか歌を口ずさめるようになる日まで。この本と音楽に頼るのもいいかもしれません。



『倍賞千恵子ころのうた』

最後に。詩を訪ねて旅をする小説もいかがでしょう。

堀江敏幸『その姿の消し方』（新潮社・一五〇〇円）は、留学中の古物市で見つけた絵葉書に書かれた一篇の詩をきっかけに、その詩人の軌跡を追う物語です。作中に見つかる詩の数々は、時系列通り

ではなく、前後した事実にも幾度も迷い込みます。詩人は市井の人物で、その家族にも出会うことができるのですが、最後はすこしミステリアスな終わりを迎えます。言葉と言葉の関連性が定まらなくとも、言葉の塵埃を集めて、紐解き、その像を結ぼうとする時間を「私」と共に過ごす長編小説。すこし長い旅路ならば、こんな本を持ってゆくのもいいのではな



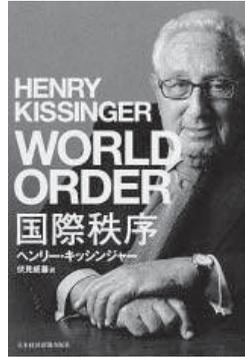
『その姿の消し方』

携える本によって、旅の景色は変わります。旅の終りのせつなさを慰め、思い出を留めてくれるような本を友に、見慣れた場所や、新しい場所を訪ねてみてください。毎日八階の窓からホームを見下ろしながら、良い旅になることを願っています。

(MARUZEN博多店・徳永)

今月の  
おすすめ

社会科学



国際秩序

ヘンリー・キッシンジャー著

本書は、長年にわたりアメリカの外交や安全保障を支えた元国務長官による世界秩序の歴史を考察したもの。ヴェストファーレン和平条約（ウェストファリア条約）の締結によって、この条約が国際秩序のシステムとして発展、普及、機能していくが、現在では弱点ばかりが露呈し、世界秩序に綻びが生じている事実を突きつける。それでもなお、二十一世紀のアメリカが世界秩序のリーダーであり続けるための歴史の教訓を導き出そうと

している。

日本経済新聞出版社 三七〇〇円

ヨーロッパ・コーリング

ブレイデイみかこ著

EU離脱で世界中の注目を集める英国。本書は在英二十年のライターによる、一般市民から見た英国の政治時評。マスコミの報道ではわからない、英国の「地べた」の人々の動向、感覚がよく伝わってくる。

右派と左派の対立、スコットランド独立問題、貧困、移民問題、EU……様々な問題で揺れる英国の状況が語られ、翻って日本について考えずにはいられない。

子どもに貧困など英国特有の問題点ではないような箇所も多いが、国民の政治への態度など、差異も浮き彫りにされる。

岩波書店 一八〇〇円

子育て支援が日本を救う

柴田 悠著

子育て支援の大切さを統計的に実証した画期的な一冊。経済や財政、あるいは少子化や格差など、日本の将来には多くの不安がつきまとう。本書を読むと、保

育サービスを中心とした子育て支援政策

の充実が、様々な領域へ良い効果をもたらすことが客観的データによってよくわかり、説得力がある。その政策は、経済成長に重きをおく保守と、福祉に力を入れるリベラル、両派にとつとも望ましい方向性であり、今すぐ改革の実現が必要だ。

勁草書房 二五〇〇円

「教養」として身につけて

おきたい戦争と経済の本質

加谷珪一著

マネー関連のベストセラーがいくつもある著者の、戦争と経済について論じた一冊。日清・日露戦争の時代から直近の他国紛争まで、さまざまな戦争を独自の視点で分析している。この本を読むと、どんな時代でも、戦局を優位に進める最も重要な要素は経済力なのだと納得させられる。地政学をからめた解説や株価の推移、IT技術の進化した近未来戦争の予想など、非常に読みごたえのある内容となっている。

綜合法令出版 一五〇〇円

### 地方議会のズレの構造

吉田利宏著 著者は元法制局キャリアア  
で、現在は著述業のかたわら、議会アド  
バイザーなどの活動を行っている。市民  
生活に密接にかかわっているのが地方議  
会だ。しかしいつになっても、ムダ遣い  
の報道などで住民と議会の間には溝があ  
る。本書では一般市民と議員の双方に、  
現場をよく知る著者ならではのメッセー  
ジが発せられている。お互いもっと知る  
努力をして歩み寄れば不信任もなくな  
り、今よりずっと暮らしやすい自治体に  
なるはずだと思わされた。

三省堂

二〇〇〇円

### 高校野球の経済学

中島隆信著 著者は経済学の観点から  
様々なテーマを著してきたが、今回は高  
校野球である。明治時代にアメリカから  
野球が伝来し、そこからどのように現在  
の制度に整ってきたのかを追いつながら  
高校野球の問題点を経済学的見地から検  
証している。人格形成のための教育とし  
て「高校生らしさ」を徹底し、そのため  
に過度の商業性の排除があるという。し  
かし、高校野球に関わる、あるいは職業

とする大人がいるからこそ、商業性との  
バランスは課題であり続ける。

東洋経済新報社

一五〇〇円



### 超・箇条書き

杉野幹人著

世界最高峰のビジネススクール、IN  
SEADでMBAを取得した著者によ  
る、超・箇条書きの指南書。箇条書きは  
BULLET POINTSと呼ばれ、世界的に  
重要視されるスキルである。そのやり方  
とは、まず伝えたいことの全体を構造化  
し、読者を引きこむ物語をつくり、最後  
に心に響くメッセージを打ち出すことだ  
である。本書では、事象のレベルを揃える、  
あるいは具体的に数字を出して説明する  
など具体的なテクニックが紹介される。  
メールやプレゼンなど幅広く応用できる

ため、必須の武器となるだろう。

ダイヤモンド社

一四〇〇円



### ブラックバイトに騙されるな!

大内裕和著

今、学生アルバイトのブラック化が深  
刻な問題となっている。大学教授の著者  
はゼミ生との会話からこの問題を知り、  
アンケートを実施した。すると、試験前  
にシフトを入れられて単位を落とす者、  
店全体の管理を任せられるなど正社員並み  
の労働を強いられる者までいることがわ  
かった。社会人経験がないことを逆手に  
言いくるめられ、アルバイトをやめたく  
てもやめられない。今、まさに学生自身  
も周りの大人も考えなければならぬ問  
題を提起した一冊である。

集英社

一二〇〇円

**今月の  
おすすめ**

**コンピュータ**

**プログラミング言語 Go**

アラン・ドノバン、  
ブライアン・カーニハン著 柴田芳樹訳  
Go は Google が開発したプログラミング言語で、Cをはじめとした様々な言語の要素を引き継ぎつつも、複雑さを極力排したシンプルな構成が最大の特徴。原著者の一人は古典的名著『プログラミング言語C』（共立出版・二八〇〇円）などで知られるカーニハン。本書もまたGo学習に必須のバイブルとして、長く読み継がれていくことだろう。

丸善出版

三八〇〇円



**Python 機械学習プログラミング**

Sebastian Raschka 著

株式会社クイープ訳 福島真太郎監訳

昨年九月に発行された原著が、早くも邦訳。乱雑なデータの山を有用な知識へと変える機械学習。その実装にはデータ分析用のライブラリが充実している Python が用いられることが多い。本書は機械学習の概念の説明から Python によるアルゴリズムの実装、話題のディープラーニングまで解説している。インプレス 四〇〇〇円

**ブロックチェーンの衝撃**

ビットバンク株式会社、『ブロックチェーンの衝撃』編集委員会著 馬淵邦美監修

ブロックチェーンは仮想通貨ビットコインの基幹技術。これまでの中央集権的なシステムと異なるP2P方式の分散型システムで、低コストでありながらシステムダウンやデータの改ざんにも強いとされる。ビットコインだけに留まらず、様々な事業への転用を目指して世界中で研究されているブロックチェーン技術について、包括的に学べる一冊。

日経BPP社

二八〇〇円

**グッド・マス**

ギークのための数・論理・計算機科学

Mark C. Chu-carroll 著 cooatom 訳

技術者だった父親の影響で幼少期より数学に慣れ親しみ、プログラマーの傍ら人気の数学ブログを運営している著者。本書の数学の各トピックを取り上げる切り口は、たとえば「ミスター・スポックは論理的じゃない」といったいかにもギークらしいユニークなもので、他の数学入門書とは一線を画す。高度な数学に秘められた面白さ、美しさに触れよう。オーム社 二六〇〇円

**ENIAC**

現代計算技術のフロンティア

T.Hahn, M.Priestley, C.Pope 著

土居範久監訳 羽田昭裕、川辺治之訳  
最初期の汎用電子計算機として、以降のコンピュータにも多大な影響を与えたENIAC。元々は軍の弾道研究所で設計されたこの稀代の計算機は、誕生から稼働終了までの約十年間で、どんな道のりを歩んだのか。各地に眠る記録資料を精査し、詳細に描き出した一大記録。

共立出版

五五〇〇円



## 自然科学

### 場のちから

内藤 廣著

津波災害によって均された土地に、初めに建設されたコンピニを見て、内藤は、「これでいいのだ」という気持ちと「それでいいのか」という気持ちを交差させる。被災地における建築の可能性は、これから時間をかけて考えていけばいいという思いと、その場所に根を張らないコンピニの性質は、土地と切り離された現代の建築を何よりもあらわしているのではないかという思いである。

新国立競技場建設をめぐる一連の問題によって、建築という価値が大きく毀損され、「建築の冬の時代」到来を予見する。建築は深い、根無し草になってしまった。様々な建築プロジェクトの最大の関心事は、それが転売できるかということだけである。

中上健次の名が突如呼び起こされるのは、中上が「重力」場のちから」を持つ

た作家だからである。建築の依って立つところは大地であり、そこに生きる人々である。その視線は、中上の「路地」を見つめる視線と交叉している。建築に「場のちから」を取り戻さねばならない。

王国社

一九〇〇円

### 街角図鑑

三土たつお編著

工事現場のバリケードや道路の舗装など、視野にはあるが目の目を見ない「路面の設置物」に焦点をあてた一冊。掲載対象も標識や街路灯は言うに及ばず、擁壁・パイロン・ブロック塀・ポスト・段差スロープなど節操がなく、ヴンダーカマーのような面白さがある。対象によっては写真とコメントだけの章もあるため「図鑑」の持つストイックさに欠ける一面もあるが、どの項目からも「この面白さを伝えたい」という感情が強く伝わってきた。これまでも鉄塔やマンホールに特化した書籍はあったが、路上にあまねく目を向けたこの本は街角の「鑑賞ガイド」として比類がない。考現学的見地からも極めて重要な一冊だと思う。

実業之日本社

一五〇〇円

### 水と生きる建築土木遺産

後藤 治・二村 悟編著

「プラタモリ」という番組を欠かさず観ている。日本各地へ飛び回り、道路や地形などから、過去の景観や戦国大名のまちづくりの方針などを紐解いていく。現代の何気ない風景が、歴史に繋がるところが実に面白い。

本書は、旧日本軍のドライドッグから洋風銭湯まで、日本各地の水に関する建築土木遺産を紹介したものである。治水、用水はそれだけの問題でなく、まちづくりや、自然との付き合い方をどう考えるかにもつながってくる。構造物からは昔の人がそれらをどのように捉えていたのか、うかがうことができる。巨大構造物からは建設当時の技術を知ることでもできるし、単純にそのスケールにも感動する。一方で水路などの紹介もある。現代の私たちにとって当たり前の風景の中にも、先人たちの知恵と工夫と苦勞が詰まっている。それだけでも結構わくわくしてくる。この夏は社会科見学のつもりで、歴史に思いをはせながら街歩きをするのもいいかもしれない。

彰国社

二三〇〇円

今月の  
おすすめ

医学書

認知症の語り

本人と家族による200のエピソード  
健康と病いの語り デイベックス・ジャ  
パン編

超高齢社会を迎え急増する認知症  
患者。

二〇二五年には六十五歳以上の五人に  
一人が認知症になると言われている。誰  
もが避けて通れない時代である。本書は  
ウェブサイト「認知症本人と家族介護者  
の語り」の書籍版。本人や家族が抱える  
不安・悩み・心の葛藤など日常での様々  
な思いが詰まった「生の声」は、正に現  
実の姿であり、認知症と向き合っている  
方のみならずすべての人の胸に迫り希望  
を持って生きて行くための支えになる。  
各ページにQRコードがあり、スマホを  
かざすと動画で語りかける。認知症の語  
りのデータベースになっている。

日本看護協会出版会 二四〇〇円

身体機能・歩行動作からみた  
フットケア

野村卓生・河辺信秀編

世界では糖尿病が原因で三十秒に一本  
足が失われており、糖尿病足変病の発症  
予防や治療が緊急の課題となっている。

糖尿病や糖尿病神経障害の合併により、  
運動機能や感覚機能が低下すると日常生活  
活動作自体も低下し、糖尿病足病変の発  
症と増悪に影響する。また糖尿病足病変  
の発症に影響を及ぼす足部にかかるメカ  
ニカルストレスは、関節機能や筋機能・  
歩行動態などのバイオメカニクスの問  
題で引き起こされる。本書は糖尿病患者  
において身体機能や歩行動作についての  
エビデンスやフットケアについてのバイ  
オメカニクスの視点でどのような介入  
が有効的であるか解説しているが、理学  
療法士以外の職種の方々にも容易に理解  
できるよう多くの図表と平易な表現でま  
とめられている。

文光堂

三五〇〇円

ブルーライトテキストブック

坪田一男編

社会問題となっているブ  
ルーライトに関する医学的な根拠に基づ

いた本邦初のテキスト。眼には健全な体  
内時計を決める光(ブルーライト)を見  
る機能があることが最近わかった。LED  
D照明の基礎から、体に与える影響やそ  
の後の対策まで各分野の専門家が執筆。  
さまざまな領域の方に向けた一冊。

金原出版

六五〇〇円

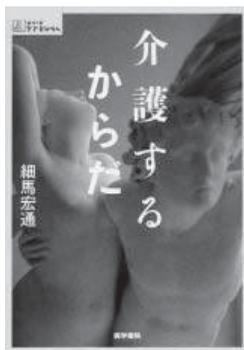
介護するからだ

細馬宏通著

そこで繰り返されるのは限りなく普  
通の日常―だが十年來介護現場で観察研  
究を続ける。目利きの著者にかかれは、  
言語以前に行われる(介護者、利用者双  
方)その何気ない身体動作が、かけが  
えない発見の一瞬になる。ほのぼのし  
た日々を描きつつ、その洞察は深い。

医学書院

二〇〇〇円



今月の  
おすすめ

人文科学

「承認」の哲学

他者に認められるとはどういうことか

藤野 寛著

異文化との共生を喫緊の課題とする現代社会にとって、承認は切実なテーマである。本書は哲学者アクセル・ホネットの著作を導きとして、承認について徹底的に考察する。同時に、全ての人を等しく認める尊重や、ただ一人に向けられる愛、承認とは似て非なるものとしての寛容をも祖上に載せる。

青土社

二二〇〇円



明治初期日本の原風景と

謎の少年写真家

アルフレッド・モーザー著

明治二年、オーストリアから写真家の付き人として日本へやってきた十六歳の少年は、病に倒れた写真家の代わりに仕事をし、日本側随行人としてウィーン万博に参加するまでになった。彼は都合七年日本に滞在し、明治の日本を写真に残し、世界各地で万博があるたび随行した。田舎の少年が世界を見た新鮮な驚きが写真からも見てとれる、オールカラーの美しい本。

洋泉社

二五〇〇円

あなたのためなら死んでもいいわ

水澤都加佐著

すっかり社会に根付いた「共依存」という言葉。その浸透は共依存という状態に心当たりのある人がそれだけ多いということを示している。本書では、共依存になってしまう原因や様々なパターンから、心身状態のチェックリスト、回復のための実践のプロセスまでが丁寧な解説されている。共依存の教科書となる一冊。

春秋社

一七〇〇円

大学入試改革

読売新聞教育部著

二〇二〇年度から日本の大学入試はどう変わるのか。大学入試改革は、当事者だけでなく、国や社会のあり方に関わる問題として注目されている。本書は読売新聞教育部が、米国のトップ大学や、韓国や台湾の先進的な取り組み、東大や京大などの難関大学における現場の試みなどを取材し、大学入試の現状と改革の展望を徹底検証した現時点での決定版。

中央公論新社

一五〇〇円

仏教の仮面を剥ぐ

ベルナル・フォール著

末本文美士ほか訳  
フランス出身の著者による、挑戦的なタイトルの仏教入門。仏教は欧米社会において、イスラム教に比べてかなり好意的な目で見られているが、だからといって正確に理解されているわけではない。たとえば「仏教は寛容な宗教である」と言われるが、果たしてそうなのか。本書が示唆するのは、仏教とはもともと多様で可能性に満ちたものだということである。

トランスビュー

二二〇〇円

## 今月の おすすめ

### 文学・文芸

#### 戦地の図書館

モリー・グプティル・マニング著

第二次大戦時ナチスの焚書は知っていたが、アメリカで戦地に本を送る図書館戦があったことを本書で初めて知った。その数一億四千万冊。ナチスの発禁・焚書を上回る数である。その内一億二千万冊は兵士用に作られた兵隊文庫と呼ばれるペーパーバックだったらしい。その中にはあの『グレートギャツビー』もあり、文庫化された当時は失敗作とされていたが、兵士が絶賛したことによりアメリカを代表する作品になったというエピソードには驚いた。

とにかくナチスにしるアメリカにしる、アプローチは違えど本が持つ力をよく分かっていたのだろう。戦地という極限状態でも本が輝きを放っていたという事実を、改めて本の力を信じてさせてくれた。

表紙カバーの質感で読書する兵士の写真もすごく良い。

東京創元社

二五〇〇円

#### 東京會館と私 上・下

辻村深月著

登場人物それぞれの思い出話を慈しむかのように大切に紡いでいる物語。

長きにわたってあり続ける東京會館にはそれなりの理由があり、働く人も訪れる人も、みんなが愛しているからこそ存在なのだと思うと物語に深みが増し、百年の歴史に納得を感じずにはいられない。時代の変遷とともに外観は変われども、受け継がれる精神は同じ。一本筋の通ったロングセラー商品を作るとはこういうことなのだ、東京會館の静かで強い意思を感じ取れて、この一大叙事詩はきっと多くの人の心を震わせることができるはずだ。

まるで著者とともに歩んでいるかのようになり進化し、発表されてきた物語の数々。だからこそ、物語の一つ一つから発信されるメッセージを強く受け止めることができるように思う。今まで辻村深月という作家に出会えていなかった読者にも、この物語はきっと届くだろう。

毎日新聞出版 各一五〇〇円

#### 尻尾と心臓

伊井直行著

人生における仕事とは？会社員とは？と漠然ともやもやしたものを持っている方にぜひ読んでいただきたいこの一冊。スカットする場面も、一発逆転する場面もないのだが、そこには紛れもなく、会社で働く人々の派手ではないが素朴で真剣な姿が描かれている。

本社から新規事業のため子会社に向ってきた男性と、外資系の経営コンサルタントから転職して一般企業の会社員となった女性が共に仕事を進めるが、いろいろな壁が立ちはだかり、一筋縄ではない。でも悩み苦しみながらもなんとか毎日を前進させる。足を止めることなく、なんとか生き抜こうとする姿があるのだ。そしてそこには家族の存在というのも確実にあり、一会社員の人生そのものがうつつしだされている。

人生における仕事とは何か、会社員とは何かの明解な答えは見つからないかもしれないが、なにかもやもやとするものがちよつと晴れてくるような、そんな小説である。

講談社

一八〇〇円

今月の  
おすすめ

文庫・新書

逆境を笑え

川崎宗則著 大きな世界で活躍できる人には共通点がある。周りをよく見ることができ、違いを受け入れることができ、柔軟な心を持った人。川崎宗則という野球選手はそういう人だ。

だから高校まで全く無名でも、プロ入りしてから大きな挫折を味わっても、アメリカに渡ってメジャーとマイナーを行ったり来たりする過酷な状況になっても、より大きくなって前に進むことができるのだ。

しかし、彼だって最初からそうだったわけではない。いかにして川崎宗則はできたのか。子どもの頃、ホークス時代、アメリカに渡ってから、進化を続ける彼の姿がそこにある。

ホークス時代は「ムネリン」だったのに最近はやたらハイテンションなイチローファン、と思われているかもしれないが、この本を読めば、ムネのことがき

と好きになるし、今まで好きだった人ももっと好きになる。

文春文庫

六三〇円

SNS時代の写真  
ルールとマナー

日本写真家協会編

コンパクトなデジタルカメラだけでなくタブレットやスマートフォンで、誰でも気軽に写真を撮り、SNSなどインターネットに公開できるようになった。

コミュニケーションツールとして、日常の記録として気軽に楽しめるようになった反面、プライバシーや肖像権の侵害、写真の悪用、思わぬ事故などの問題が数多く発生するようになった。

これは今ままでフィルムカメラしかなかった時代とは大きく異なる現象である。写真を撮ることに夢中になるあまり、周りが見えておらず他人に迷惑をかけた、軽い気持ちで公開した写真が、家族や友人の安全を脅かしていたりしていないだろうか。

具体的なケースにおける疑問や質問に、日本写真家協会のプロがアドバイスする。

朝日新書

七八〇円

ひぐま  
熊 動物小説集 改版

吉村昭没後十年記念として復刊された本著は、「熊」「蘭鑄」「軍鶏」「鳩」「ハタハタ」を題材にした動物短編小説集。表題作である「熊」は、最愛の妻を殺した熊を追って山に入った猟師銀九郎の、悲しみと執念を描いた作品だ。

人を寄せ付けなかった男が、生き方を変えるほどに愛した初めての女性を、自らが可愛がっていた熊に殺されてしまう。その絶望たるや、筆舌には尽くしがたい。壮絶なる日々の中、怒りと憎しみの果てに銀九郎を待っていたのは、妻と熊、双方へ向けた想いであつた。失つたものの悲しみ、後悔を、ただ最愛の妻だけに捧げることができたなら、彼にとつてまだ救いがあったのではないだろうか。

どの作品からも、動物たちの荒々しい生の魅力と、それに関わった人間たちの情熱や、虚脱するほどの悲しみを感した。それを抱えながら、生きていかねばならない人の姿を、読者はいつか彼らが幸福になる最後まで、見守ることはできない。ただ、その背中をじっと見ているだけしかできないのだ。

新潮文庫

五五〇円

今月の  
おすすめ

芸術



金魚ノ歌

深堀隆介著

金魚がきれいな水の中で気持ちよさそうに泳いでいる。金魚が泳いだ後に出来る水面のゆれ、ヒレが広がりなんと涼しげ。夏にピッタリの写真集！

という紹介ではないのだ。本書、実は生きている金魚を撮った「写真」ではなく、手で描いた「絵」なのである。

3Dペイントという技法で透明樹脂に着色しては乾かしてという作業を何度も行うことで、生き生きとした金魚を描く

ことが可能になるそうだ。何度技法を説明されても作品集を見る限りでは金魚が生きているように見える。

手を伸ばせば触れるのではないかと思わせる深堀ワールド。ぜひお手にとって涼を感じていただきたい。

河出書房新社

三〇〇〇円

写真関係

石内 都著

病気やケガなどで身体に残された傷跡を撮影した「キズアト」シリーズ、自身の母親の遺品を撮影した「mother's」シリーズ、広島の原爆資料館に保管されている遺品を撮影した「ひろしま」シリーズ、画家フリーダ・カーロの遺品を撮影した「Frida」シリーズなどで知られる女性写真家・石内都のエッセイ集である。キズや遺品といった、言ってしまえば「ネガティブ」な題材であるにも関わらず、その作品からは美しさや、力強さを感じれる。

被写体とどう向き合い、何を感じ、何を伝えたいのか……写真とは、果ては「生きる」とはなんなのか、ということを考えさせられた一冊。

筑摩書房

二八〇〇円

にっぽんのかわいいタイル

昭和レトロ・モザイク篇

加藤郁美著

古いお家や銭湯など、昭和の建物を美しく彩ったタイル。

最盛期には国内シェアの八十%を占め、海外にもとてつもない量のタイルを輸出していた町が、岐阜県多治見市笠原町である。四キロ四方の小さな町を「タイルの町」に創り上げたのは、山内逸三という一人の若者だったとのこと。近代陶磁器研究の最先端技術を学び、その技術を町に持ち帰ったことで、一気に「美濃焼タイル」が広まったという。

一言でタイルといっても、実に様々な形や色があり、それをパズルのように組み合わせることのできるモザイク画は、正に芸術作品のようである。

タイル一つ一つが繊細に作られていることが伝わり、まるで宝石のように美しく輝いている。図版も多く収録されているので、お気に入りの一つを探してみたいかがだるうか。

国書刊行会

二二〇〇円

今月の  
おすすめ

実用書  
地図・旅行書

オトナ女子のための食べ方図鑑

「食事10割」で体脂肪を燃やす

森 拓郎著

女性の永遠のテーマ、ダイエット。痩せるためならツイ運動も食事制限にも努力を惜しまなかった二十代。ちよつとした体重の増減にも一喜一憂して、話題のダイエット法は即実践。成功と挫折を繰り返し、気がつけばもう三十代。運動しているのに、食事制限しているのに、野菜食べてるのに、サプリだって飲んでるのに。——痩せない。

そんな悩める、ダイエット難民、オトナ女子の皆さんにオススメなのがこの一冊。様々なNG女子が図鑑形式で登場する本書は、クスツと笑えるイラスト付きで、知っているつもりで知らなかったダイエットの、それ、間違ってますよ！を分かりやすく解説。食事で代謝は上げられる！、大人気「食事10割」シリーズの著者が、美肌と健康にも嬉しい、正しい

ダイエット法、教えます!!

ワニブックス 一三〇〇円

バスケット料理大全

作元慎哉・和田直己著

スペインとフランスの二国にまたがるバスケット地方。二つの大国に分かたれながらも、独特の文化を保持し続けるこの地域は、古くから多くの旅人達を魅了し続けてきた。しかし近年、世界中から注目を集めているのは、多くの食通たちを唖らせたというバスケット料理である。

バスケット地方はその恵まれた地形から、新鮮な食材には事欠かない。例えば魚なら、春にはイワシ、夏はマグロ、秋はタラやイカ、冬にはタイが豊富に獲れる。しかもこの地域には、ソシエダアと呼ばれる、女人禁制・男性だけの会員制の会食組織があるのだ。週末などに皆で集まり、食事を作って共に食べるクラブが、街ごとにたくさんあるのだとか。それほど食べることが好きな人々の作る食事が、おいしくないはずがない!

日本ではほとんど紹介されてこなかったバスケット料理を、レシピはもちろん、バスクの文化風土、レストランでの注文の

仕方まで網羅した、読んでも眺めても楽しい、作ってもおいしい至れり尽くせりの一冊だ。

誠文堂新光社 二八〇〇円

浅草うねうね食べある記

「おみやげ編」

上野うね著

二〇一五年春に出版された、浅草食べ歩きコミックエッセイ本の第二弾。

前作読者からの、紹介されているお店はどこも魅力的でたくさん回りたいけれど、旅行で頻繁には来られないし、選びきれない！といった声から生まれた今作では「おみやげ」にスポットを当て、テイクアウトできる食べ物や雑貨など、浅草職人のこだわりと伝統が詰まった十四店が紹介されている。

おみやげとは言っても贈りものだけではなく、その日のご飯にできるものもあるので、近くにお住まいの方は散歩本として、旅行の方にはガイドブックとして活用できる。やわらかなタッチのイラストで表現される著者の素直な感想に共感し、散歩に行こうと思わせる一冊。

ぶんか社 一〇〇〇円

# 今月の おすすめ

## 語学・辞典

### 英語という選択

嶋田珠巳著

植民地支配の歴史から英語を「公用語」として使うようになったアイルランドで、自分たちのことはであるアイルランド語が話せなくなった。そのような自分たちのことを再び国語にしようとして、アイルランド政府は「アイルランド語が国語であり、第一公用語」、英語は「第二公用語」であると憲法で定め、二言語使用の国家を目指す。

著者はこのようなアイルランドの言語を巡る歴史と社会の現実と、日本の英語教育の現状を比較する。「英語」を第二公用語とし、「グローバル人材育成」を推し進めて日本人の英語力を高めることを教育の中心の課題としている点が、アイルランドのそれと共通しているという。今後の日本の英語教育の参考となるのではないだろうか。

岩波書店

二七〇〇円

### イメージでわかる表現英文法

田中茂範監修・著

弓桁太平著

英文法をネイティブはどのように捉えているのかを解説した本である。この文法の持つ感覚というのは、言葉では伝わりにくく、むしろイラストの方が説明しやすい。よって「イラストを本文の一部にする」というコンセプトで書かれている。今までも文法の説明にイラストを使う書籍は多くあったが、文法の説明だけでなく、例文の説明にもイラストを多用することで、文法説明と例文の関係性によりはつきりし、とても分かり易い文法書となっている。

例えば時制の現在完了形の用法をいくつも覚えたという方も多いのではないだろうか？ 本書では、現在完了形が持つ一つのコアでの用法にも対応できるということがイラストで説明されている。今までたくさんの方の用法を覚えるのに苦労したという方にこそ読んでいただきたい。英語を暗記した知識の組み合わせと捉えていては、英語で表現することは難しい。英文法の持つコアのイメージを身につけ、表現できる英語を手に入れよう。

### 学研

一五〇〇円

### 中国語で読む

### 我的ニッポン再発見！

段 文凝・江 正殷著

本書は段文凝さんが毎日小学生新聞に連載していたコラム「どこが違うの？ 中国と日本」を基に、日中対訳形式に編集したものである。解説、文化コラム、練習問題などを加え、中国語学習のテキストとして、また異文化理解を深める助けとなるものだ。

日本の四季折々の行事や風習を通して、中国との違いや発見などを短いコラムで綴っている。中国語文にはピンイン（中国語の発音をアルファベットで表したもの）がついているので、中国語初級者でも無理なく読むことが出来る。見開きで対訳になっており、コラムに出てきた単語の確認もできるので、辞書を引かずとも単語の意味を理解し読むことができる。また、各コラムには文法解説があり、基本的な文法を少しずつ理解し、練習問題でおさらいをして、中国語力の定着をはかることができる。

研究社

一八〇〇円

今月の  
おすすめ

児童書

あおのじかん

イザベル・シムレール文・絵

石津ちひろ訳

日が沈み、やがて夜の闇が訪れるまでの間、淡い水色から深い濃紺へ刻々と移り変わってゆく空。その下ではアオカケス、モルフオチヨウ、わすれなぐさ、ヒヨウモンダコなど青い生きものたちがそつと夜を迎える準備をしています。しんとした静けさと、様々な美しい「青色」を堪能できる絵本です。

岩波書店

一七〇〇円

なきむしごぞう

今村葦子作 酒井駒子絵

ぬいぐるみの、ぞうと、きりんと、ら  
いおん。持ち主のあの子がいつもらんぼ  
うにするので、ついに家出をします。

いなくなつてあの子が大泣きしている  
と知ると、三匹はこれまで積み重ねてき  
た時間や、小さいけれど大切な思い出が

ひとつひとつよみがえり、あの子への、  
いとおいしい気持ちがかみ上げてきて、胸  
がぎゅつといっぱいになります。子ども  
時代の忘れたくない大切な時間が詰めこ  
まれています。

理論社

一五〇〇円

モンソーンの贈りもの

ミタリ・パークインズ作

永瀬比奈訳

高校生初めての夏休みに、母のルーツ  
を探しに家族と共にインドへやって来た  
ジャスマイン。居場所を見つけ、周囲に馴  
染んでいく家族の中で、一人苛立ちを募  
らせていたジャスマインは孤児院に身を寄  
せる少女タニタと出会います。タニタの  
抱える厳しい現実を知った時、ジャスマ  
インは過去の失敗から怖気づく心を奮い立  
たせ、力になる事を決心します。異なる  
環境で生きてきた二人の少女は恵みの雨  
モンソーンの季節に伸びやかに成長して  
いきます。

すぎき出版

一六〇〇円

古森のひみつ

ディーノ・ブツァーティ作

川端則子訳

退役軍人のプロコロコ大佐が叔父から  
受け継いだのは老木が生い茂り木の精が  
住むといわれる古森でした。しかし新た  
な持ち主となった大佐は強力な風マツ  
テオを従わせ、早速森を支配し始めま  
す。偏屈で嫌われ者の大佐ですが、ふし  
ぎと子どもたちと同じように森や風の声  
を聞き、木の精の姿を見ることができま  
す。人間の欲深さや悲哀が森に生きる存  
在の目を通して幻想的に描かれています。

岩波少年文庫

七〇〇円

せなか町から、ずっと

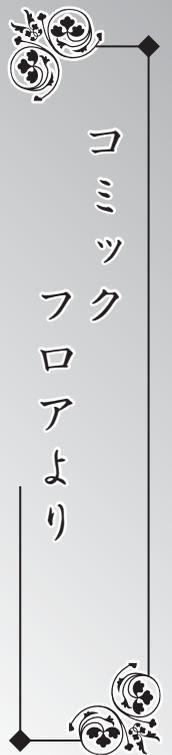
斉藤 倫作 j u n a i d a 画

わしは、マンタという大きな魚。えい  
に似ているらしいが、それよりもつと  
もつと大きく、何百年も海に漂っていた。  
ある時、長い眠りから覚めると、わしの  
背中を鳥と勘違いをした人間たちが住み  
ついていた。

その、せなか町で起きた出来事を書い  
た短編集です。どの話もゆっくりと聞い  
ていたい、心地よく、心にポツと灯りが  
灯る温かさがあります。

福音館書店

一四〇〇円



## コミックフロアより

—第8回—

コミック売り場よりこんにちは！

またまた帰ってまいりました、大人も子どもも、親子で楽しめるメディア化が決定したマンガ作品を紹介するこのコーナー。

この秋はアニメがとても元気です！家族の、友情の物語をてんこもりで紹介したいと思います。この秋のマンガの映像化、気になった作品があればコミックフロアにぜひ見に来てくださいね。



『3月のライオン』

『3月のライオン』

（白泉社ヤングアニマルコミックス・羽

海野チカ著

主人公の桐山零は十七歳のプロ棋士。幼い頃両親と妹を交通事故で亡くし、父の親友・幸田棋士に引き取られて十五歳でプロの棋士になるが、心はずっと深い孤独をかかえ、周囲に溶け込めず、将棋の対局も負けが続いている。

東京の下町でひとり暮らしをしている零は、あることをきっかけにあかり・ひなた・モモの三姉妹に出会い、彼女たちと接しているうちに少しずつ心が溶け始めていく。

アニメ化・ドラマ化された『ハチミツとクロバナー（ハチクロ）』の羽海野チカさんの最新作が、ついに二〇一六年秋にNHKでアニメ化、二〇一七年には二部作で実写映画化されます。温かくて優しい、そして戦いの物語。アニメでも実写でもこの温かい物語を堪能していただきたいです。

『四月は君の嘘』

（講談社月刊マガジンKC・新川直司著）

天才ピアニストと呼ばれていた有馬公生は十一歳の秋に母親を亡くす。ショックでピアノが弾けなくなり、目標もなにもなく、ただ生きているような毎日。十四歳になった春、公生を気に掛けた幼なじみに連れられて行ったダブルデートで、圧倒的で傍若無人、個性豊かなヴァイオリニスト・宮園かをりに出会い、今までモノトーンの中で生きていた公生の世界はカラフルになっていく。

昨年アニメ化された作品が二〇一六年九月実写映画化で登場。『ワンピース』の尾田栄一郎さんが絶賛して更に話題になった作品です。ページをめくるたびに音が聞こえてきそうなこの作品に音楽をつけて観られるなんて、アニメも映画も絶対チェックしたくなりますよ。



『四月は君の嘘』



『ALL OUT !!』

『ALL OUT !!』

(講談社モーニングKC・雨瀬シオリ著)

チビがコンプレックス、身長一五九センチの祇園健次は、高校の入学式に新潮一九〇センチ、ノッポの石清水と出会う。そしてその時目にしたのはラグビー部の練習。すっかりラグビーに魅了された祇園はラグビー部に入部するが、経験者の石清水は入部に乗り気ではない。それは過去にあった事件を引きずっていた。凸凹コンビが送るラグビー青春ストーリー。

こちらは二〇一六年十月からアニメ化。最近のラグビーブームに乗り遅れた方、まだまだ間に合いますよ！ ラグビーを知っている人はもちろん、知らなくても絶対ハマる本格ラグビーマンガ、おすすめです！



『アトム  
ザ・ビギニング』

『アトム ザ・ビギニング』

(小学館クリエイティブ・HCヒーローズコミックス・カサハラテツロー画)

原因不明の大災害が起きたその五年後、国立練馬大学でロボットを研究する学生、お茶の**水博志**と**天馬午太郎**。二人が作った試作ロボットA106(通称シックス)は、自分で行動する心を持った優しいロボット。

これは鉄腕アトムが生まれる前のお話です。お茶の水博士と天馬博士も大学院生で親友。シックスはアトムの原型なのかもしれません。ロボット開発にすべてを懸けた「鉄腕アトム」誕生までのごと。まだ単行本は三巻までと短いのですが、来年アニメ化決定です！アトムを知っていても知らなくても、みんな楽しめる作品ですよ。親子で楽しんでほしい。

いです。



『うどんの国の  
金色毛鞠』

『うどんの国の金色毛鞠』

(新潮社バンチコミックス・篠丸のどか著)

四国・香川のうどん屋の息子だった宗太は、家業を継がず東京でwebデザイナーとして働く三十歳独身。親が亡くなり空になった実家に久々に戻った宗太は、うどん屋の釜で眠る不思議な子どもを発見する。一見普通の子どもに見えるが、実はその子はタヌキだった!?

四国香川を舞台にした優しく温かい家族の物語、二〇一六年十月からアニメ化です。うどん屋の話ではないんですが、とにかくこの物語はうどんが食べたくなる！そしてタヌキのポコのかわいらしさにも注目です。

# ATION

<p>ジュック堂書店  <b>＝名古屋栄店＝</b>            ☎(052)212-5360            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善  <b>＝名古屋セントラルパーク店＝</b>            ☎(052)971-1231            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝口フト名古屋店＝</b>            ☎(052)249-5592            [営業時間] 10時半～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝名古屋店＝</b>            ☎(052)589-6321            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝岐阜店＝</b>            ☎(058)297-7008            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝四日市店＝</b>            ☎(059)359-2340            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝滋賀草津店＝</b>            ☎(077)569-5553            [営業時間] 10時～22時</p> <p>MARUZEN  <b>＝京都本店＝</b>            ☎(075)253-1599            [営業時間] 11時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝京都店＝</b>            ☎(075)252-0101            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝高槻店＝</b>            ☎(072)686-5300            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュック堂書店  <b>＝梅田店＝</b>            ☎(06)6292-7383            [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善  <b>＝関西国際空港店＝</b>            ☎(072)456-6486            [営業時間] 7時～21時半</p> <p>丸善  <b>＝八尾アリオ店＝</b>            ☎(072)990-0291            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝高島屋大阪店＝</b>            ☎(06)6630-6465            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝大阪本店＝</b>            ☎(06)4799-1090            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝難波店＝</b>            ☎(06)4396-4771            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝天満橋店＝</b>            ☎(06)6920-3730            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝上本町店＝</b>            ☎(06)6771-1005            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝梅田ヒルトンプラザ店＝</b>            ☎(06)6343-8444            [営業時間] 11時～22時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝近鉄あべのハルカス店＝</b>            ☎(06)6626-2151            [営業時間] 10時～20時</p>	<p><b>8月3日 OPEN !</b>            ジュック堂書店  <b>＝奈良店＝</b>            ☎(0742)36-0801            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝西宮店＝</b>            ☎(0798)68-6300            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝芦屋店＝</b>            ☎(0797)31-7440            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝神戸住吉店＝</b>            ☎(078)854-5551            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝三宮駅前店＝</b>            ☎(078)252-0777            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝三宮店＝</b>            ☎(078)392-1001            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝神戸さんちか店＝</b>            ☎(078)335-2877            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝舞子店＝</b>            ☎(078)787-1250            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝姫路店＝</b>            ☎(079)221-8280            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝岡山シンフォニービル店＝</b>            ☎(086)233-4640            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN  <b>＝広島店＝</b>            ☎(082)504-6210            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝広島駅前店＝</b>            ☎(082)568-3000            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝高松店＝</b>            ☎(087)832-0170            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝松山店＝</b>            ☎(089)915-0075            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝博多店＝</b>            ☎(092)413-5401            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝福岡店＝</b>            ☎(092)738-3322            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝大分店＝</b>            ☎(097)536-8181            [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN  <b>＝天文館店＝</b>            ☎(099)239-1221            [営業時間] 10時～20時半</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝鹿児島店＝</b>            ☎(099)216-8838            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュック堂書店  <b>＝那覇店＝</b>            ☎(098)860-7175            [営業時間] 10時～22時</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>≡ 札幌店 ≡</b>            ☎(011)223-1911            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 水戸京成店 ≡</b>            ☎(029)302-5071            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 日本橋店 ≡</b>            ☎(03)6214-2001            [営業時間] 9時半～20時半</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 吉祥寺店 ≡</b>            ☎(0422)28-5333            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>MARUZEN  <b>≡ 札幌北一条店 ≡</b>            ☎(011)232-0222            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN  <b>≡ 丸広百貨店飯能店 ≡</b>            ☎(042)973-1111            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善  <b>≡ お茶の水店 ≡</b>            ☎(03)3295-5581            [営業時間]            月～金10時～20時半            土10時～20時            日・祝10時～19時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 立川高島屋店 ≡</b>            ☎(042)512-9910            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 旭川店 ≡</b>            ☎(0166)26-1120            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 大宮高島屋店 ≡</b>            ☎(048)640-3111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN  <b>≡ 多摩センター店 ≡</b>            ☎(042)355-3220            [営業時間] 10時半～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ ラゾーナ川崎店 ≡</b>            ☎(044)520-1869            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 弘前中三店 ≡</b>            ☎(0172)34-3131            [営業時間] 午前10時～            午後7時</p>	<p>丸善  <b>≡ 桶川店 ≡</b>            ☎(048)789-0011            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 有明ワンザ店 ≡</b>            ☎(03)5530-5701            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>丸善  <b>≡ 横浜ポルタ店 ≡</b>            ☎(045)453-6811            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 盛岡店 ≡</b>            ☎(019)601-6161            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 津田沼店 ≡</b>            ☎(047)470-8311            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ メトロ・エム後楽園店 ≡</b>            ☎(03)5684-5130            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 藤沢店 ≡</b>            ☎(0466)52-1211            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>丸善  <b>≡ 仙台アエル店 ≡</b>            ☎(022)264-0151            [営業時間] 10時～21時            日・祝10時～20時</p>	<p>丸善  <b>≡ 舞浜イクスピアリ店 ≡</b>            ☎(047)305-5808            [営業時間] 11時～21時、            土・日・祝10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 新宿京王店 ≡</b>            ☎(03)5321-4685            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 新潟店 ≡</b>            ☎(025)374-4411            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 仙台TR店 ≡</b>            ☎(022)265-5656            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 松戸伊勢丹店 ≡</b>            ☎(047)308-5111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 池袋本店 ≡</b>            ☎(03)5956-6111            [営業時間]            月～土10時～23時            日・祝10時～22時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 岡島甲府店 ≡</b>            ☎(055)231-0606            [営業時間] 10時～19時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 秋田店 ≡</b>            ☎(018)884-1370            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>8月10日 OPEN !            ジュンク堂書店  <b>≡ 南船橋店 ≡</b>            ☎(047)401-0330            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ プレスセンター店 ≡</b>            ☎(03)3502-2600            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN  <b>≡ 松本店 ≡</b>            ☎(0263)31-8171            [営業時間] 10時～20時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 郡山店 ≡</b>            ☎(024)927-0440            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>≡ 渋谷店 ≡</b>            ☎(03)5456-2111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>≡ 大泉学園店 ≡</b>            ☎(03)5947-3955            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>≡ 新静岡店 ≡</b>            ☎(054)275-2777            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>丸善  <b>≡ 丸の内本店 ≡</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 丸の内本店 ≡</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 名古屋本店 ≡</b>            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>≡ 名古屋本店 ≡</b>            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p>

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。

定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。





## 「迷いに価値などあるのか」

私は本屋の中で迷うのが好きだ。もちろんそれは自分の店での話ではない。どこか知らない町の本屋での話だ。目当ての本を勘だけを頼りに探し続けるのならまだですが、目的もなく迷うためだけに立ち寄ることが多いのだからたちが悪い。時間をただ浪費してしまうことも多いが、たいてい後者の方が帰りの荷物が重くなっているのである。こうして考えてみると偶然に身をゆだねることが多いのかもしれない。

例えば街を歩く時も同じである。ふと道を歩いていると脇にいかにも忘れ去られたような路地を見かける。するとなぜか強く心惹かれるのだ。このまま歩いていけば目的地にはたどり着けるのだが、そうした目先の目的よりも今その道に行かなければ一生その道に出会うこともないという危機感が上回ってしま

うようだ。そうして意味もなく知らない道を歩いた後で、安堵の気持ちと後悔を同時に味わうのだ。

昔、主人公があらゆる人生を一人で経験することができるといふある映画をみた。物語は年老いた男の回想で進行していく。タイトルは忘れてしまったがあらゆる分岐点でそれぞれの選択肢を選んだ場合に男はどのような人生を送るのかを認識することができた。男のあらゆる可能性を含んだ人生が順々に提示されていくが結局どの人生が男の真の人生であったかは明示されないまま終幕となる。

そんなことが可能であるならば私などは何度も路地を右往左往するであろうし、人生のあらゆる選択肢を前にして事細かにすべてを経験しようとするであろう。後悔や幸福を手にする以前にいつまでたっても終着点へとたどり着かないかもしれない。当然のことながらこうしたSFの類はあまりに非現実的であるがゆえに、考えるだけ時間の無駄だと一蹴してしまうことも容易である。だが同時に非現実的すぎることがゆえに本物の人生の一回性をより強く意識

させてもくれるのだ。どんなに自分の人生をみじめに感じていてもその一つ一つがかけがえないもので愛おしく思えるのである。

書店で迷う時には脇道にあらゆる物語が連なっている。どれを選んだとしてもそれは自分にとって不可逆性の路地であつてそれをなかつたことにはできない。こうした偶然の積み重ねで人間は生きていくしかないのだ。だからこそ書店で迷うことに意味があるのかもしれない。はたまた書店で迷つたということに意味なんてなかつたと悟るかもしれない。偶然が後から思い返してみると自分の人生の大きな分岐点であつたということもあるかもしれないのだ。

書店で生まれた偶然がその人の一日を変えてしまうということも大いにありうる。そしてそうした偶然が人生をも左右してしまうかもしれない。なぜならそうした一日一日の積み重ねで私たちは生きていくのだから。そう考えてみるととりあえず迷つたら書店で迷つてみるのも一考の価値があるのかもしれない。

(スペシャル103)

## 「書標 ほんのしるべ」 第453号

編集・発行人 工藤 恭孝

発行所 (株)丸善ジュンク堂書店

印刷所 (株)七 旺 社

〒160-0008

〒653-0013

東京都新宿区三栄町二十九 ニューフィールドビルディング

神戸市長田区一番町二丁目一

二〇一六年八月五日発行 頒価五十円(本体四十六円)

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可  
2016年8月5日発行（毎月1回5日発行 通巻第453号）



日本全国で  
3,000万冊の品揃え!  
丸善ジュンク堂書店

頒価 五十円（本体 四十六円）

ジュンク堂書店

淳久堂書店

M MARUZEN